

第7章 福岡町地域における エコ活動の取組イメージと条件

第7章 福岡町地域におけるエコ活動の取組イメージと条件

1 エコ活動の具体的な取組及び成果（住民ワークショップ結果）

(1) エコまちづくりワークショップの活動実績

地域・住民主導による「エコ」をテーマとした福岡町地域らしい回遊性のあるまちづくりの推進や、環境に配慮したエコな市民生活の啓発を目的としたワークショップを実施した。ワークショップ参加者は、「公募市民」「商工会、企業・市民活動団体」「自治会等代表者」で構成され、アンケート調査結果から設定した4つのテーマを、各グループに割り当て、高岡市のエコまちづくりについて話しあい、エコまちづくりに必要なアイデアや、アイデアを元にしたマップの作成などを通じて、現状で足りない要素などをまとめた。

図表7-1 ワークショップのプログラム概要

区分	第1回	第2回	第3回	第4回（全体発表会）
① 里山保全コース	<ul style="list-style-type: none"> 里山についての話 参加者からの質疑応答 	<ul style="list-style-type: none"> 里山体験 ①西五位地区（窪谷氏） ②五位山地区（浦山氏） 	<ul style="list-style-type: none"> 里山を活かした収益事業の育成について 	<ul style="list-style-type: none"> 第1～3回 活動内容の紹介
② エコな暮らし10ヶ条コース	<ul style="list-style-type: none"> 施設見学（(株)ヒヨシ） 参加者からの質疑応答 	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ省資源活動の事例紹介（中村氏） 家庭でできるエコ活動のアイデア出し 	<ul style="list-style-type: none"> 重点エコ活動の決定 スローガンについて 	
③ 地域資源（エコ）を活用したまちづくりコース	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりについての現状説明 まちの課題や現状についての意見 	<ul style="list-style-type: none"> まちめぐりマップ作成 	<ul style="list-style-type: none"> 具体案の検討 	
④ エコに配慮した地産地消のまちづくりコース	<ul style="list-style-type: none"> 地産地消に関する説明 鯉料理試食（鯉のワンタン） 参加者からの意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 地元特産品、加工品についての説明（佐野氏） 里芋掘り体験 里芋加工工場の見学（(有)中山農産） 	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習（里芋コロケ） エコクッキングについて 	

(2) 第1～3回エコまちづくりワークショップ

ア 第1～3回ワークショップ開催

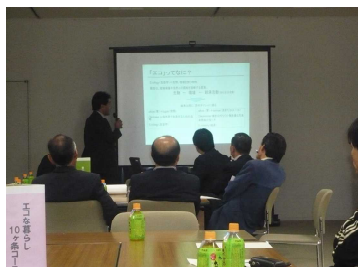
第1～3回エコまちづくりワークショップがUホール等で開催され、各種団体の方や自治会の方、一般公募の方など計53名が参加し、「里山保全コース」「エコな暮らし10ヶ条コース」「地域資源(エコ)を活用したまちづくりコース」「エコに配慮したまちづくりコース」の4コースに分かれて活動した。どのコースも熱心に活動している様子がうかがえるワークショップとなった。

図表7-2 エコワークショップ第1～3回の概要

- | | |
|------|---|
| ○ 日時 | 平成22年11月20日(土)、11月27日(土)、12月4日(土) 13時～ |
| ○ 場所 | Uホール等 |
| ○ 内容 | 第1回 開会式(高岡市挨拶等)、オリエンテーション(ワークショップについて)、コース別活動
第2回、第3回 コース別活動 |



オリエンテーション



ワークショップの説明



ワークショップ中の様子(Uホール内)

イ 活動の様子

① 里山保全コース

◆ 里山保全コース 第1回ワークショップ (11月20日)

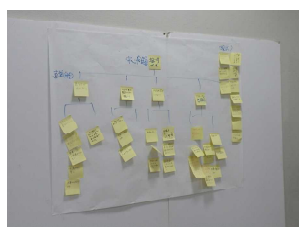
講師の永田氏・窪谷氏から地元で実施されている里山保全活動や里山整備活動の紹介。また、里山を保全していく上で現状と問題点を整理するとともに、問題点の起因となる要素まで掘り下げて議論した。

【活動内容】

- 里山についての話 (永田氏、窪谷氏)
- 参加者からの質疑応答

【主な意見】

《課題》	《直接的原因》	
担い手がない⇒意欲が湧かない		⇒採算がとれない、用材になるまで時間がかかる など
	⇒山の仕事に関心がない	⇒労力がかかりすぎる、人が山に行かない など
	⇒後継者がいない	⇒所有者が高齢化している、都会に後継者がいる など
	⇒行政の努力	⇒所有者境界がわからない、住民にPRが足りない など



◆ 里山保全コース 第2回ワークショップ (11月27日)

講師の窪谷氏・浦山氏の協力を得て、西五位地区と五位山地区の里山体験を実施した。窪谷氏、浦山氏から、里山の現状や課題、竹林伐採により山林を再生する活動や里山の自然を用いた事業(タケノコ加工場、シイタケ栽培場)などについて紹介があった。参加者は、熱心に里山の現状やシイタケ栽培などの状況を見学し、里山への興味を高めていた。

【活動内容】

- 里山体験 (西五位地区・窪谷氏、五位山地区・浦山氏)

【主な現地説明】

《西五位地区・・・窪谷氏》

- 西五位地区(山岸)では竹林を全て伐採後、ナラの木を植林する活動を行っている。
- 周辺では不法投棄が頻繁になされているため、パトロールを定期的に行っている。
- 里山の活用方法としては「土地ごと利用する方法」と「里山で収穫できるものを活用する方法」の2種類があると考えられる。
- 農道の幅員が狭く重機が入れない箇所があり、鉄板を敷く対応はコストが高く行政からの支援が得られない。

《五位山地区・・・浦山氏》

- 五位山地区(栃丘)は竹の子を収穫するため、山岸地区のように竹を全て伐採してはいないため、毎年手入れが必要である。
- 伐採した竹はチップにして散布している。
- 当加工場の竹の子は防腐剤(クエン酸)を一切使用していないことが自慢である。
- 竹の子の他にムカゴ・ジネンジョ・コゴミなどの山菜も採れ、3年前からはヨシナも植えている。



◆ 里山保全コース 第3回ワークショップ (12月4日)

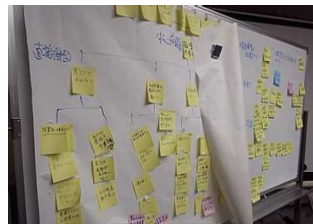
前回の里山体験と前々回の里山の問題点の整理を元にこれからの里山を活かした収益事業の育成について議論した。参加者は里山を活かした収益事業に向けた体制や事業内容、そして推進する場合の課題などについて熱心に話し合った。

【活動内容】

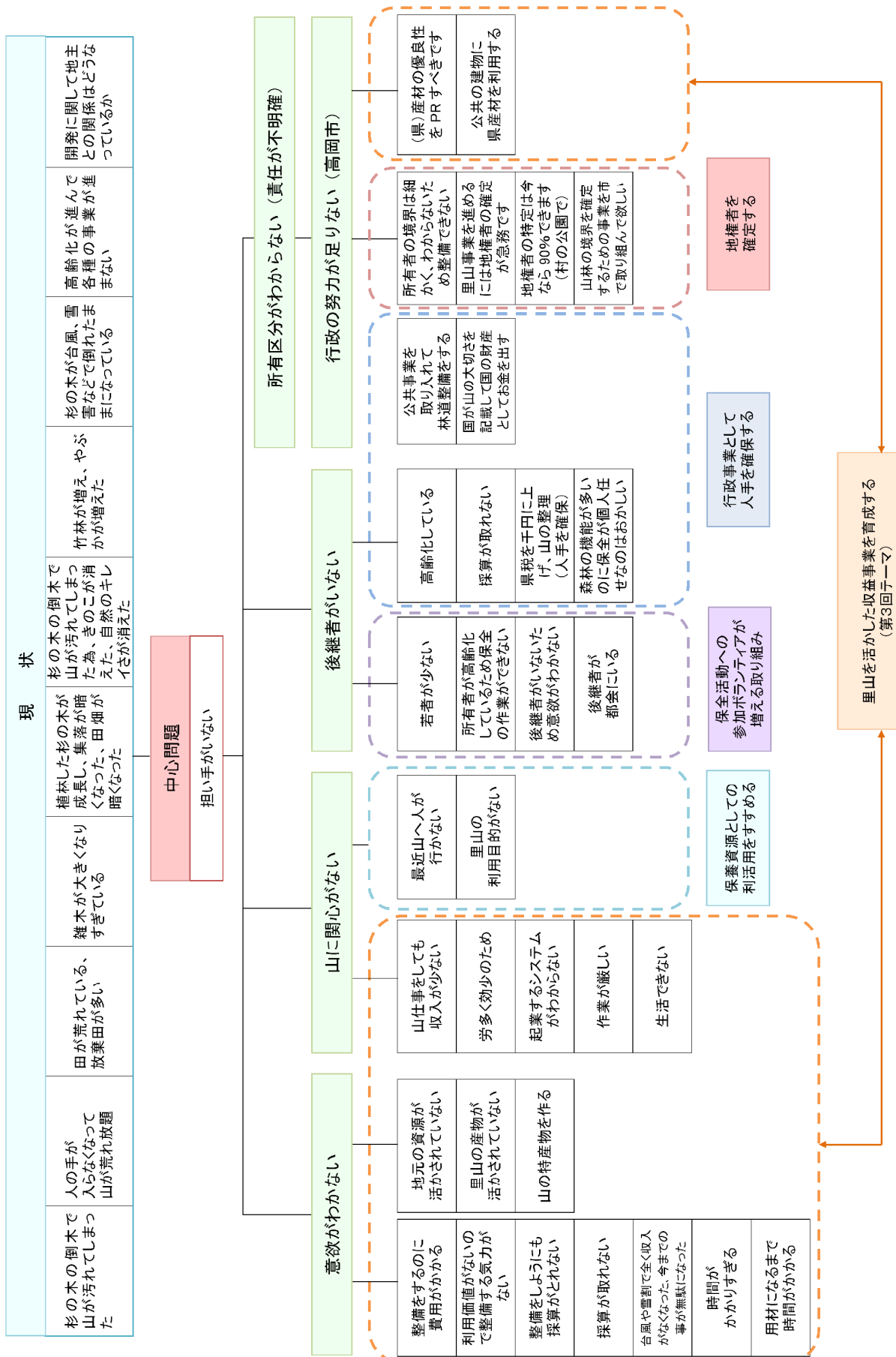
○ 里山を活かした収益事業の育成について

【主な意見】

- 保全事業の位置づけ⇒本業として事業を行うのは難しいのでは。今では農業も副業になっている。
- 事業⇒特産品による収益確保 (シイタケ) 季節にちなんだ特産品づくり など
- 体制⇒出荷組合が中心となった里山保全体制づくり NPO の設立 など
- 課題⇒リーダーの育成 里山事業に関わっていない方からの意見も必要 行政からの助成 など



◆里山保全コース（第1回ワークショップ結果）



② エコな暮らし 10ヶ条コース

◆ エコな暮らし 10ヶ条コース 第1回ワークショップ (11月20日)

省エネ活動を積極的に実施している(株)ヒヨシの施設見学を行った。(株)ヒヨシでは木質廃棄物を燃料として発電し、施設内の電力供給を行う一方、余った電力を北陸電力に売電して運営していた。また、市内で排出される廃プラを搬入し、RPF製造前の圧縮加工処理にも携わっていた。参加者からは説明の合間に質問がなされるなど、有意義な施設見学になった。

【活動内容】

- 施設見学 (株ヒヨシ)
- 参加者からの質疑応答

【主な質疑内容】

- 施設の運営はどのようにして行っているのか。⇒木質廃棄物の処理料金と北電への売電で運営。
- 廃プラの中に生ゴミ等が入っていないのか。⇒以前はかなり生ゴミ等の混入があったが、現在では1週間で5～10袋程度。
- 加工チップの取引等はないのか。⇒一部、取引をしているがほとんどは発電に用いている。
- 売電取引は北陸電力だけなのか。⇒地元貢献のために北陸電力だけに売電している。 など



◆ エコな暮らし 10ヶ条コース 第2回ワークショップ (11月27日)

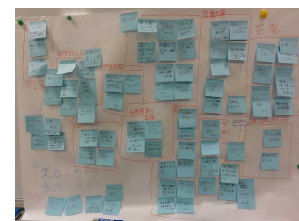
講師の省エネルギー普及指導員・中村氏が、家庭でできる省エネ省資源活動の事例を紹介し、家庭でできるエコ活動のアイデア出しを行った。事例紹介では家庭内で工夫(冷蔵庫の整理、梱包材(プチプチ)を窓の断熱材として利用など)すると簡単にエコにつながるなど説明があった。参加者からはエコにつながるアイデアが約80件出された。

【活動内容】

- 省エネ省資源活動の事例紹介 (省エネルギー普及指導員・中村氏)
- 家庭でできるエコ活動のアイデア出し

【アイデアのグループ分け】

- 「家族団らん」⇒ 家族がみんなで一緒に食事するなど。
- 「暖冷房」⇒ ウォームビズ、クールビズの励行、居間の窓の断熱カーテン、緑のカーテンの使用など。
- 「節水」⇒ お風呂、台所の水を出しっ放しにしないなど。
- 「自動車」⇒ 近くに出かけるときは車を使わないで歩く、事業所等でノーマイカーデーを設けるなど。
- 「節電」⇒ テレビ、電灯など不要な時は消すなど。
- 「分別リユース」⇒ 容器の無駄をなくすため、詰め替えできる製品を使用するなど。



◆ エコな暮らし 10ヶ条コース 第3回ワークショップ (12月4日)

前回の出されたアイデアを元に項目ごとに重点的に推進する活動について話し合った。参加者からは重点的に推進するエコ活動に加え、エコな暮らし 10ヶ条のスローガンについても意見が出され、とても充実したワークショップとなった。

【活動内容】

- 重点エコ活動の決定
- スローガンについて

【重点エコ活動の決定】

- 「節電」⇒電気や家電製品などの電源をこまめに入切する。
- 「分別・リユース」⇒ゴミ（不要物）の適切な分別
- 「台所のエコ」⇒生ゴミの減量（多量に買わない、水分を絞ってから捨てる） など

【スローガン】

- 「エコに繋がる家族団欒（だんらん）・みんなで楽しくエコの実行」
- 「スローライフで生ゴミを減らそう」
- 「小人から大人まで生ゴミ減量大作戦」 など



③ 地域資源（エコ）を活用したまちづくりコース

◆ 地域資源（エコ）を活用したまちづくりコース 第1回ワークショップ（11月20日）

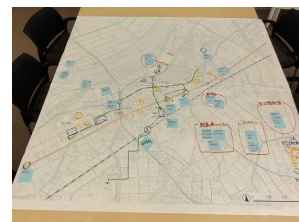
高岡市福岡駅前まちづくり推進室・山崎室長が、福岡駅前で実施している都市再生整備計画事業について説明した。参加者は、福岡駅前周辺の地図を用いて、小学生や高校生の通学ルートや高齢者の買い物ルートなど回遊性の基礎となる歩行ルートの現状や課題について熱心に議論した。

【活動内容】

- まちづくりについての現状説明（高岡市福岡駅前まちづくり推進室・山崎室長）
- まちの課題や現状についての意見

【主な意見や特徴的な箇所】

- 郊外の駐車場の充実やまちなか駐車場の有効活用等によって安全に歩きやすいまちづくりを考えてみてはどうか。
- 高齢者や子育て中の女性に配慮したバリアフリーのまちづくりが必要。
- 中学生や高校生の通学ルートや高齢者が多く通る路地、自転車や自動車と歩行者の接触事故が懸念される箇所、市民が日常的に利用する施設を地図上にプロットした。



◆ 地域資源（エコ）を活用したまちづくりコース 第2回ワークショップ（11月27日）

前回の活動内容（回遊性を高めるための基礎となる歩行ルートの現状や課題などの意見）を踏まえ、まちめぐりマップの作成にとりかかった。参加者から、まちめぐりを行う上での様々なアイデアが多く出され、とても充実感のあるワークショップとなった。

【活動内容】

- まちめぐりマップ作成

【主な意見や特徴的な箇所】

- 3つの主要交差点（辻）が重要であり、沿道の施設や建物がまちづくりに協力していくことが必要。（交差点沿いの建物がまちぐりの休憩スペースを提供するなど）
- 桜並木や橋、各家庭などでイルミネーションライトアップをしてはどうか。
- つくりものの展示や体験などで年中見られる工夫が必要。
- 菅笠や、映画監督「滝田洋二郎の生家」などを活用する。
- 歴史的な町並み（家屋）は格子戸のデザインを統一してはどうか。
- 他にも食事スポットやビュースポット、ポケットパークなどを地図上にプロットした。



◆ 地域資源（エコ）を活用したまちづくりコース 第3回ワークショップ（12月4日）

これまでのワークショップで出されたアイデアや検討内容について具体的に何から始めていけばよいか議論を行った。参加者からは、福岡のまちづくりに向けて真剣にワークショップに取り組む姿がうかがえた。

【活動内容】

- 具体案の検討

【主な意見】

- ①安全、安心なまちづくり ⇒歩車境界に点的に石柱（灯籠）を設置など
- ②辻づくり、ポケットパーク ⇒小学生や中学生が安全に集まれる場所、まちづくり工房の活用 など
- ③花の回廊づくり ⇒個人で植樹・管理による回廊づくり など
- ④菅笠の活用 ⇒福岡のイメージとして菅笠の活用 など
- ⑤空き家、空き店舗の活用 ⇒空き家ギャラリー（小中学生の作品展示）など
- ⑥夜間景観の演出 ⇒実験的な灯りイベントの実施



④ エコに配慮した地産地消のまちづくりコース

◆ エコに配慮した地産地消のまちづくりコース 第1回ワークショップ (11月20日)

高岡市農林水産課 和田主事が市で取り組んでいる地産地消活動について説明した。また、食生活改善推進協議会の協力によって福岡地区の特産品である鯉を用いたワンタンの試食体験も実施した。参加者からは、地産地消とエコについて熱心な議論がなされた。

【活動内容】

- 地産地消に関する説明 (高岡市農林水産課・和田主事)
- 鯉料理試食 鯉のワンタン
- 参加者からの意見交換
- 具体案の検討

【主な意見】

- イベントで地産地消をアピールしている。(食生活改善協議会)
- 鯉料理を普及させるために鯉料理研究会(平成20~21年)のレシピ紹介をはじめ、鯉を型取った料理など市民が鯉に対して親しみを持てる活動から始めてみると良いと思う。
- タピスで福岡産食材の販売量を調査してもおもしろいのではないかな。
- 地産地消とエコをどのようにつなげるかがむずかしい。⇒地産地消の中でエコにつながるものとしてフードマイレージの抑制が考えられる。
- 福岡産の新鮮な食材を活用し、無駄のない調理レシピを考えられないかな。
- 今回のWSでは里芋を題材にエコクッキングを考えてみてはどうか。 など



◆ エコに配慮した地産地消のまちづくりコース 第2回ワークショップ (11月27日)

講師の食生活改善推進協議会・佐野氏から地元特産品や加工品の活動について説明があった。活動場所を(有)中山農産に移し、福岡地区の特産品である里芋掘りと里芋加工工場見学を行い、生産から出荷までの苦労などを現場で体験した。参加者は地産地消に対する認識を今まで以上に深めていた。

【活動内容】

- 地元特産品、加工品についての説明(食生活改善推進協議会・佐野氏)
- 里芋掘り体験((有)中山農産)
- 里芋加工工場の見学((有)中山農産)

【主な意見】

- 地元でこのように里芋を栽培していることを知らなかった。今日は勉強になった。
- 里芋の栽培から出荷まで、とても手間がかかることを知ることができた。
- 改めて地元産を買うことが重要と感じた。
- 農業を守りつつ育てていくことの大変さを感じた。
- 農産物の活用方法を考えて付加価値をつけることが大事。
- 赤米や里芋など、インターネットを活用した情報の発信が重要ではないかな。
- このまま外食生活を続けていけば、生産者の大変さがわからない。地産地消どころの話ではない。農業を育てていくことができなくなる。 など



◆ エコに配慮した地産地消のまちづくりコース 第3回ワークショップ (12月4日)

前回の里芋掘りを踏まえ、食生活改善推進協議会の協力のもと、里芋料理の調理実習を行った。これまでの市の地産地消に対する取り組みや、里芋生産者の製品工程を学習し、地産地消に関連性の高いエコ活動として、エコクッキング方法をテーマとしたアイデアを出し合った。

【活動内容】

- 調理実習 (里芋コロッケ)
- エコクッキングについて

【主な意見】

- 洗い物の工夫 ⇒ 物を洗う時は水の出しっ放しをしない 潜在の使用量をひかえている。 など
- 買物 ⇒ マイバックを活用している あまった食材は乾燥させて保存食へ。 など
- 野菜のムダ削減 ⇒ 規格外の野菜の活用 野菜・果物の皮はできるだけうすく剥く。 など
- 調理 ⇒ 圧力鍋を活用しガスの使用時間を短くする 石油ストーブで煮物などしている。 など



(3) 第4回エコまちづくりワークショップ ～全体発表会～

ア 第4回ワークショップ開催

第4回エコまちづくりワークショップがUホールで開催され、約70名が参加した。これまでの「活動内容」と「活動の成果」の全体発表会ということもあり、ワークショップ参加者以外に一般の方々も参加するなど、福岡町地域の方々がエコまちづくりに強い関心を持っている様子がうかがえた。

全体発表会では「里山保全コース」「エコな暮らし10ヶ条コース」「地域資源（エコ）を活用したまちづくりコース」「エコに配慮した地産地消のまちづくりコース」の代表者（各2名）が発表を行った。発表者からは、これまでの活動内容を個人的に整理して発表する姿やエコ意識を高める地産地消レシピを来場者に配布する姿が見られた。

◆日時：平成22年12月11日（土） 13時～

◆場所：Uホール

【次第】

1. 開会
2. 高岡市より挨拶
3. 活動概要の紹介
4. 全体発表（4コース）
5. 総括



受付



開会前の会場内



高岡市より挨拶



活動概要の紹介



全体発表（里山コース）



全体発表（10ヶ条コース）



全体発表（地域資源コース）



全体発表（地産地消コース）



総括



テーマ別講評



閉会



閉会挨拶

イ コース別発表

◆ 里山保全コース
<p>【発表者】 浦山正夫（一般）、吉國妃子（一般）</p>
<p>【発表内容】</p> <p>●これまでの活動内容と活動成果</p> <p>○ 第1回ワークショップは窪谷氏と永田氏から里山での取り組みや事業の紹介を聞き、里山の現状や問題点の整理、問題の起因となる要素まで掘り下げて議論した。</p> <p>◎大きな中心課題：担い手がいない</p> <p>○ 意欲がわからない（問題要素：採算がとれない、用材までに時間がかかる など）</p> <p>○ 山に関心がない（問題要素：労力がかかりすぎる、山に魅力がない など）</p> <p>○ 後継者がいない（問題要素：高齢化している など）</p> <p>○ 行政の努力が足りない（問題要素：所有者の境界がわからない、県産材のPR不足 など）</p> <p>○ 第2回ワークショップは窪谷氏と浦山氏の協力を得て、竹林を伐採してナラの木を植樹した現場や竹の子やシイタケ栽培への取り組みを見学した。</p> <p>○ 私たちは自然の恵みで活かされており、ホテルやトンボの飛び交う原風景や自然との共生によって生まれた伝統芸能、生活習慣などの地域資源をうまく活用して活力と誇りを取り戻し、後世に継承しなければならない。</p> <p>○ 第3回ワークショップは里山を活かした収益事業の育成について議論し、現時点の体制としては任意団体や出荷組合、NPOで対応することが現実的であり、事業内容としては一村一品、特産品による収益の拡大や都市部や他地域からの人を受け入れ、里山の生活や文化を活かし地域の活性化につなげるエコツーリズムの実施が必要。</p> <p>○ ①地域住民参加で里山保全の実施→②地域の絆→③環境への意識変化→④市全体を巻き込んだ新しい取り組みへと繋がると思う。</p> <p>○ 行政には所有者境界を明確にする事業や林道整備事業などの補助事業に積極的に取り組んでほしい。また住民にむけて県産材のPRや保全制度の情報提供、里山保全に向けた人材育成を実施してほしいと思う。</p> <p>○ 今回のワークショップでは里山事業当事者のみで集まったため、里山で活動していない方も参加して入れば様々な意見が取り入れられたと思う。</p> <p>●里山事業</p> <p>○ 里山体験時（11月27日（土））にシイタケ、なめこの栽培場、竹の子掘り会場などを見学してもらった。</p> <p>○ 実際に里山で活動している立場から里山保全は地区ごとに頑張らないといけないと思っている。</p> <p>○ 個人的には緊急雇用対策の一環で7町歩の竹林を整備した。</p> <p>○ 竹林のオーナー制を取り入れ、市民が里山に触れる機会の創出およびオーナーによる里山整備を実施している。</p> <p>○ 竹林整備後の植樹にはコナラ、ミズナラ、クヌギ、アベマキを用いると思うが、アベマキは炭にも薪にもシイタケ栽培にも用いることができないので注意が必要である。</p>



◆里山保全コース

<中心問題と原因分析>

「担い手がない」ことが表面化している中心的問題。

その直接的要因は、	主な理由
①「意欲がわからない」	(事業の採算性) ・整備するのに費用がかかる ・利用価値がないので整備する気力がない ・整備をしようにも採算がとれない ・用材になるまで時間がかかる 他 (資源活用の方策不在) ・里山の産物が活かされていない 他
②「山に関心がない」	(事業継続性) ・山仕事をしても収入が少ない ・労多く効少ないため 他 (利用価値の減少・曖昧化) ・里山の利用目的がない、利用方法がない ・最近山へ人が行かない
③「後継者がいない」	(後継人材不足) ・所有者が高齢化しているため保全の作業ができない ・若者が少ない 他 (自助努力の限界化) ・高齢化している ・森林の機能が多いのに保全が個人任せなのはおかしい 他
④「所有区分がわからない(責任が不明確)」 「行政の努力が足りない」	(地権者・責任者の不明瞭化) ・所有者の境界は細かく、わからないため整備できない ・山林の境界を確定するための事業を市で取り組んで欲しい 他 (公的整備の必要性) ・公共事業を取り入れて林道整備をする 他 (利用促進策の必要性) ・公共の建物に県産材を利用する ・県産材の優良品をPRすべき

<提案事業の骨格>

(1)里山を活かした収益事業を育成する	(2)保養資源としての利活用をすすめる
(3)保全活動への参加ボランティアが増える取り組み	(4)行政事業として人手を確保する
(5)地権者を確定する	

(上記提案事業の検討例)

～里山を活かした収益事業の育成～

保全事業の位置付け	本業として事業を行うのは難しい。今では農業も副業になっている。
体制	<p>地域全体のこととして組織的に取り組む必要がある。また、持続性あるものにしていく必要がある。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山保全は長期的な対策が必要 ・任意団体としての組織 ・出荷組合の組織化 ・NPOの設立促進 ・収入問題とメンバーが固定化しない方策検討 ・NPO設立のメリット・デメリットを教えてほしい ・ボランティアの善意だけではつづかない 他
事業内容	<p>里山からの産品を特産物として収益化を図っていく。また、観光資源としての活用も。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品による収益拡大 ・一村一品運動 ・観葉植物の育成 ・けいおう桜など(冬に咲く桜) ・季節の特産品 ・エコツーリズム 観光資源としての活用 ・良い眺めのある魅力ある林道整備 ・シイタケの活用 他
課題	<p>事業育成にはより多くの参加者と知見を求めて検討されることが必要。</p> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者だけの話し合いではダメ ・新鮮な意見が必要 ・リーダーの育成 ・県・市の助成 ・地主さんの意識改革

◆ エコな暮らし 10ヶ条コース

【発表者】

麻生達乗（福岡地域長寿会）、梁瀬温子（キラッと福岡ネット）

【発表内容】

● これまでの活動内容

- 第1回ワークショップは(株)ヒヨンに足を運び、木質廃棄物を燃料にした自家発電の現状や余った電力を北陸電力に売電している取り組み、廃プラの圧縮加工処理現場を見学してきた。
- 第2回ワークショップは省エネルギー普及指導員の中村早苗氏から家庭でできるエコの話聞き、私達の暮らしの中でエコに繋がるアイデアを付箋紙にそれぞれ書いて、12項目に分類した。
- 第3回ワークショップでは第2回ワークショップで分類した12項目を10項目に整理し、取り組み易い項目などについて話し合いを行った。また、最後には標語を掲げてPRしていこうという話にもなった。

● 活動成果

- 第3回ワークショップでは何が大切な活動か話し合い、話し合った結果を個人的にまとめてきた。
 1. 無駄のない買い物、無駄のない調理で生ゴミを減らしましょう
 2. テレビ、電灯など不要時はこまめに消しましょう
 3. 水を出しっぱなしにしないで大切にしましょう
 4. 資源ゴミの分別でリサイクルに協力、また、過剰包装は断りましょう
 5. ウォームビズ、クールビズで暖冷房の省エネにつとめましょう
 6. 近くへは徒歩や自転車で、公共交通機関を利用しマイカーの走行を減らしましょう
 7. 整理整頓して無駄なものを買わないようにしましょう
 8. 衣類の自然乾燥、日当たりの良い部屋など自然を上手に使いましょう
 9. グリーンカーテン（つる状植物）で太陽光を遮り、緑豊かで涼しい生活を楽しみましょう
 10. 家族団欒、みんなで集まれば楽しく省エネ生活。暖冷房の部屋数を減らしましょう。家族でエコについて話し合いましょう。

○ エコな暮らしのスローガン

「エコはまず我が家から 地域へエコ生活の輪を広げよう」

「スローライフ ・ 自主自立 ・ 地域コミュニティの醸成」



【エコな暮らし 10ヶ条コース成果資料】

◆エコな暮らし 10ヶ条コース～エコな暮らし 10ヶ条～

1. 節電	
◆ 重点：電気の無駄、テレビ、電灯など不要な時は消す（こまめな電気の入切）	
★★★：	・ラジオの有効活用 ・室内のクロスの洗浄（壁紙をきれいにする）
★★：	・冷蔵庫を2個から1個へ減らす ・週1回、冷蔵庫の庫内を整理
★：	・里山の雑木を用いた、薪ストーブの活用 ・主要部屋（リビングなど）照明スイッチのリモコン化
2. 水（節水・水の再利用）	
◆ 重点：お風呂、台所などでの節水（個人の意識向上）	
★★★：	・お風呂は時間を開けずに入る ・（お風呂）残り湯の洗濯利用
★★：	・台所水の再利用（自家農園）
3. 分別・リユース	
◆ 重点：ゴミ（不要物）の適切な分別	
★★★：	・すぐに新しい物を買わない、古い物の利用推進 ・容器の無駄をなくすため、詰め替製品の使用 ・贈答品の包装紙箱の過重包装の廃止・簡易包装を勧める （スーパーへの呼びかけ、贈答品の包装紙箱の再利用） ・折り込み用紙の再利用 ・郵便封筒の再利用 ・エコバック、エコバック、水筒の利用
★★：	・市民団体でリユース（再利用）推進システムを作る。（ゴミ収集所の横に（簡単な）リサイクル所）
★：	・スーパーなどの発泡スチロール・レイ容器の廃止
4. 自動車（移動手段）	
◆ 重点：ノーマイカーデーを設定	
★★★：	・近所の移動は徒歩、自転車、JR、公営バスを利用 （健康にもよい） ・富山や金沢へ行くときは列車で移動する
★★：	・効率的・計画的な行動
★：	・半径5km以内は車を使用しない（家庭内で確認）
5. 冷暖房の工夫	
◆ 重点：冷暖房は衣類にて調整（ウォームピズ、クールピズ）	
★★★：	・寒くても暑くてもできるだけガマンする ・体をよく動かし、体温を高める（せっせと動く） ・夏は部屋を開放（障子など取る）外の空気を取り込む ・窓の断熱シート（フチフチ）の使用 ・湯たんぼの利用（布団の中） ・玄関と居間との空間をわける ・冬は目張り（隙間にテープを貼る）などによってすさま 風を防ぐ ・サマータイムの実施
★★：	・古民家やお寺等を利用した（クーラーを使用しないで）小会議、発表会

【取り組み易さ指標】

- ★：大きな投資が必要であったり、活動できる対象者が限定される活動
- ★★：誰もが活動可能であるが、数値的な目標や制約（相手の協力が必要であるなど）がある活動
- ★★★：個人の意識次第で実施可能な活動

6. 食（台所のエコ）	
◆ 重点：生ゴミの減量（多量に買わない、水分を絞ってから捨てる）	
★★★★：	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消への積極的取り組み（家庭菜園など安心して食べられる） ・無駄のない調理法を心かける ・自家農園で野菜づくり ・野菜くず（生ゴミ）のリサイクル
★★★：	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の量の節減（余り物をなくす） ・無駄な買い物しない ・生ゴミは堆肥化して使用する
7. 物をまとめる（コンパクト化）	
◆ 重点：整理整頓による、部屋に埋もれた備品等の再利用	
★★★★：	<ul style="list-style-type: none"> ・物を大切にす
8. 自然資源の活用	
◆ 重点：小さなことも大きなことも自然エネルギーの有効活用を意識（Ex. 乾燥機使用を控え、太陽光の活用）	
★★★★：	<ul style="list-style-type: none"> ・竹炭の消臭、湿気取りの活用 ・日当たりのよい部屋の有効活用（部屋の使い方の工夫）
★：	<ul style="list-style-type: none"> ・（里山）竹炭の田畑への活用
9. 家族団らん	
◆ 重点：家の中では一部屋で集団生活（特に冬、夏）	
★★：	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内でエネルギーについての会話 ・家庭の日を設定（第3日曜（小学校）） ・お風呂の順番の家族内決定 ・仕事室の使い方の話し合い ・土日は家庭団らん ・ろうそく一本で家族団らん（1回/月） ・ノー TV day の実施
10. グリーンカーテン	
◆ 重点：緑あふれるまちづくりに協力（敷地内緑化、前庭緑化）	
★★★★：	<ul style="list-style-type: none"> ・つる状植物（ゴーヤ等）グリーンカーテンの推進 ※早めに収穫して食べれば夏バテ防止に効果があり。冷風が入る

スローガンに対する意見			市民から行政に向けて
・スローライフ	・自主自立	・地域コミュニティの醸成	①行政は数値評価を住民に知らせるべき（市民の努力の見える化） ②情報発信（家族でまとまりが大事であること等の意識啓発）
・エコに繋がる家族団らん・みんなで楽しくエコな家族	・取り組める事から始めよう みんなで楽しくエコの実行	・家族団らんでみんなで楽しくエコの福岡町	
・みんなで出来る残さない食生活ですてきな福岡	・誰もが簡単に生ゴミ減量エコの福岡	・“生ゴミの減量”スローライフで明るい福岡町	
・生ゴミ減量 もう一工夫	・誰でも取り組める福岡町のエコの実行	・簡単に誰もが生ゴミ減量エコ効果の福岡	
・小人から大人まで生ゴミ減量大作戦	・生ゴミ減量 腹八分	・スローライフで生ゴミを減らそう	

【取り組み易さ指標】

- ★：大きな投資が必要であったり、活動できる対象者が限定される活動
- ★★：誰もが活動可能であるが、数値的な目標や制約（相手の協力が必要であるなど）がある活動
- ★★★★：個人の意識次第で実施可能な活動

【発表者からの配布資料】

エコな暮らし10カ条コース

【エコな暮らしのスローガン】

エコはまず我が家から 地域へエコ生活の輪をひろげよう

・スローライフ ・自主自立 ・地域コミュニティの醸成

【エコな暮らし10カ条】

- 1、無駄のない買い物、無駄のない調理で生ごみを減らしましょう。
生ごみの減量 ・コンポストを利用し肥料に ①生ごみは水分を絞って ・地産地消
- 2、テレビ、電灯など不要時はこまめに消しましょう。
節電 ・冷蔵庫は2個から1個へ ・週1回、冷蔵庫の在庫一掃メニューの実施（庫内整理） ・照明スイッチのリモコン化 ・薪ストーブの活用
- 3、水を出しっぱなしにしないで大切にしましょう。
節水 ・お風呂は時間をあけずに入る。 ・お風呂の残り湯を洗濯利用に……
- 4、資源ごみの分別でリサイクルに協力、また、過剰包装は断りましょう。
分別・リユース ・過剰包装を断り、簡易包装に ・容器の無駄をなくし詰め替え製品使用
- 5、ウォームビズ、クールビズで暖冷房の省エネにつとめましょう。
暖冷房時の省エネ ・夏は外気を取り入れる ・冬は隙間風を目張りなどで防ぐ
・窓に断熱シートの使用 ・湯たんぽの使用
- 6、近くへは徒歩や自転車で、公共交通機関を利用しマイカーの走行を減らしましょう。
- 7、整理整頓して無駄なものを買わないようにしましょう。
- 8、衣類の自然乾燥、日あたりの良い部屋など自然を上手に使いましょう。
- 9、グリーンカーテン(つる状植物)で太陽光を遮り、緑豊かで涼しい生活を楽しみましょう。
- 10、家族団欒、みんな集まれば楽しく省エネ生活。暖冷房の部屋数を減らしましょう。家族でエコについて話し合きましょう。

◆ 地域資源（エコ）を活用したまちづくりコース

【発表者】

石沢 紘一（福岡地区 中町）、徳田新一（商工会 福岡支部）

【発表内容】

● これまでの活動内容と活動成果

- 第1回ワークショップは誰のためのまちづくりかということと現状の課題について話し合った。
- 一般的に福岡地域は観光地としての印象が低いと思われているが「つくりもんまつり」や「桜並木」、「カメラ館」、「菅笠」「鯉」など全国的に知られている観光資源があり、駅を中心に来訪者が歩いて回りやすいまちづくりを行うことが結果的に、地域住民にとっても住みやすいまちづくりにつながると考えた。
- 課題としては「安全なまちづくり」や「回遊できるまちづくり」が大項目として挙がっており、回遊できるまちづくりでは“辻作りの必要性”や“桜並木が途切れている”“案内看板が少ない”“空き家が多い”“夜間のイルミネーションが少ない”“菅笠が買える場所がわかりにくい”“つくりもんまつりが期間限定である”“殿様清水のPRが足りない”といった意見が出た。
- 第2回ワークショップは第1回ワークショップの課題を踏まえ、まちづくりの方向性を検討し、第3回ワークショップでは具体的なアイデアを出し合った。
- 安全なまちづくり
 - 旧北陸道を通る車のスピード抑制が挙げられ、石の灯籠などを歩車境界に設置することで車に対する安全対策にもなり、灯りを照らすことで夜道の防犯にも役立つ。
 - 交差点部の安全性の確保では北陸銀行両側の辻付近が中学生の通学路となっており、広い様で狭くなっているので対応が必要との意見があった。
- 回遊できるまちづくり
 - 桜並木の延伸では市民が各々の記念日にちなんだ桜の木を植樹することで、記念となる桜を大事に育てていくのではないかという意見があった。
 - 案内看板の充実では重要な箇所への案内看板を設置するといった意見のほかに、高校卒業生の自転車を活用したレンタサイクルを実施するといった意見もあった。
 - イベント的な灯りの演出策については以前商工会の青年部で福岡駅前のイルミネーションを実施していたが、明るいまちづくりを積極的に行ってはどうかという意見があった。将来的には岸度川の桜並木にもイルミネーションを設置し、現存の資源をより活用できることにつながっていくと思う。
- 地域資源の活用
 - 菅笠の活用方法の検討では菅笠をまちづくりのシンボルとして表札や案内看板に用いてはどうかという意見があった。
 - つくりもんまつりの常設については空き店舗を活用して年中見られるようにしてみてもどうかという意見が出た。
 - きれいな水のPRではまちめぐりの休憩所に殿様清水の水で作ったコーヒーなどを提供するなどの意見があった。



【地域資源（エコ）を活用したまちづくりコース成果資料】

◆地域資源（エコ）を活用したまちづくりコース 意見まとめ

第1回 課題の整理	第2回 まちづくりの方向性	第3回 まちづくりのアイデア
<p>■ 誰のためのまちづくりか？</p> <p>■ 安全なまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路に危険な箇所がある ・未舗装の区間がある ・旧北陸街道を通過する車両のスピードが速い ・高齢者やベビーカーを押す女性の視点が大切 ・交差点部で、歩行者や自転車が溜まり危険 	<p>地域住民と来訪者のためのまちづくり</p> <p>安全な通学路の確保</p> <p>旧北陸道のスピード抑制 歩行者の安全性確保</p> <p>交差点部の安全性確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な道ができれば、住民も来訪者も良い ・魅力的な町になれば、住民の誇りになる、来訪者が歩きたくなる、店を利用し、お土産を買えば潤う <ul style="list-style-type: none"> ● 通学路指定道路を住民も知って、自動車などで強制通らないように配慮する ● 自転車の乗り方、ルールを徹底する ● 旧北陸道の歩行者と自動車の境界に、石柱を点的に配置する <ul style="list-style-type: none"> ・車のスピード抑制になる、歩行者は石があるので安心できる、その石に灯りをつける、管笠をつける ・石の陰にこみ曇構構を置く（景観に配慮できる） ● 旭町交差点の辻づくり <ul style="list-style-type: none"> ・旭町交差点は小学生が多いため、小学生が安全に溜まれるスペースづくり ・送迎の親御さんが見送れる、交流できるスペースづくり ● 橋上町交差点の辻づくり <ul style="list-style-type: none"> ・橋上町交差点は中学生の自転車や歩行者が多いため、安全に溜まれるスペースづくり
<p>■ 回遊できるまちづくり</p> <p>① 辻づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり福岡工房の活用、辻（交差点）が重要 ・旧北陸道沿いにポケットパークが少ない 	<p>辻を良くすれば、街並みの印象が変わる ポケットパーク、休憩スポットの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央通交差点の辻づくり <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり福岡工房、北陸銀行、大黒屋さんの辻を明るくすべし ・北陸銀行が改修の際に、ギャラリーや休憩スペースを設けるなど工夫するとい ・この辻から旧北陸道の街並みが綺麗に見える。 ・案内板などまちの情報がわかるような辻になるとよい
<p>② 緑化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葦川で桜並木が途切れている ・桜並木の維持管理、消費が必要 	<p>桜並木の延伸 国道8号の孤幅後の街路樹の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民が参加して植樹、維持管理をする <ul style="list-style-type: none"> ・街路樹や桜並木づくりに、住民が参加をして植樹し、水やりなどの維持管理を自分たちで行う
<p>③ 案内看板など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内看板が少ない 	<p>案内看板を充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 案内看板、マップの充実、レンタサイクルの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・町の重要な辻などに案内看板を設置し、来訪者の回遊性を支援する ・町歩きマップ、グルンマップ作成、レンタサイクル（高校卒業生の寄付）実施、サイクリングマップ作成など
<p>④ 空き家などの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き地、空き家・空き店舗が目立つ 	<p>空き家、空き店舗の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・小、中、高校生が空き地や空き店舗を利用できないか ・空家を小中学生の作品ギャラリーとし、学年毎に1〜2か月展示すれば年間活用できる、親が見に来る
<p>⑤ 夜間景観の演出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イルミネーションなど夜間景観の演出も必要 	<p>イベント的な灯りの演出案を検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 灯りイベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・イルミネーションの演出：駅周辺から始めてみる→将来的に岸渡川沿いの桜並木に設置する ・旧北陸道で灯りのイベントを実施→将来的に歩車道境界の石柱の灯りに発展するとい
<p>■ 地域資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管笠が買える店がわからない ・管笠をもっと活用すべき 	<p>管笠の活用案を検討</p> <p>つくりもんまつりを常設できないか</p> <p>きれいな水をPR</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 管笠をまちづくりのシンボルに <ul style="list-style-type: none"> ・表札や看板、案内看板などに管笠を活用する、管笠をレンタルし観光客がぶつて歩く色々なサービスを受けられる、管笠のストラップなど新商品を開発する ● つくりもんの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・年中見られる工夫（ショーウィンドウ、空き家での展示、VTR）、つくりもん体験イベントなど ● 殿様清水の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・福岡の美しい水をPR、おいしい水で淹れたコーヒーの販売

◆ エコに配慮した地産地消のまちづくりコース

【発表者】

浜木 慶子（一般）、上野紀一（福岡地区水田営農実践組合）

【発表内容】

● これまでの活動内容

- 第1回ワークショップでは福岡地域が鯉と菅笠が特産品の町であること、テーマが地産地消ということであることから鯉料理研究グループで鯉料理を学校給食のメニューにしてもらうことを目的として創作した鯉料理の「恋のワンタン」を試食した。
- 最近では鯉が手に入りにくくなっているが、地元の食材を地元の私たちがおいしく頂くことが地産地消になるのかなと思う。
- 第2回ワークショップは食の伝承人の佐野氏から鯉などの地元特産品の話聞いた後、(有)中山農産に移動し、里芋掘り体験と貯蔵倉庫・製品加工現場を見学させて頂いた。
- 到着時に里芋は掘り上げられており、連なった里芋をほぐし、(収穫)箱の中に入れる体験だけであったが、大変な作業であると感じた。
- 一昔前までは里芋を腐らせてしまうことが度々あったが、見学先の貯蔵倉庫では大きな箱に里芋同士が接しないよう注意することで風通しを確保し、暖房の中での保存によって里芋を長持ちさせる工夫がなされていた。
- しかし、(有)中山農産では商品として扱えない親芋が大量に残り、最終的には泥と化す状況にあるという話をうかがい、個人的に何とかして捨てることなく食することができればと思った。
- 第3回ワークショップでは第2回ワークショップで(有)中山農産から頂いた里芋を家に持ち帰り、どんな料理に調理したか発表を行い、里芋コロッケの調理、エコクッキングの方法について話し合った。
- 家庭での里芋料理では「田楽」と「イカと里芋の煮っ転がし」が多く作られていたが洋風のお菓子里芋に工夫がなされたりしていた。
- 個人的に活動している団体では「自然環境を大切に」をスローガンとし、水を大切にし、エネルギー源を大切に、食材を大切にすることを心がけることがエコであると思っている。

● 活動成果

- エコクッキングの方法を5つに分類してまとめている。
 1. 効率良くクッキング（何をすべきか把握、役割分担、タイムテーブルの作成 など）
 2. 洗い物の工夫（節水への心がけ、お湯を使用する際も温度を低くするなどの心がけ など）
 3. 買物（パックしていない物を優先的に購入、作り過ぎた野菜などの保存、歩いて買物 など）
 4. 調理方法の工夫（圧力鍋を使用するなど調理器具の工夫、こたつ・石油ストーブの活用、お互いの良い所をほめ合うなど心に余裕をもつことが大切 など）
 5. ゴミの減量（規格外野菜の活用、皮や茎もおいしく食べる、ビニール袋に捨てるべき物を明記する など）
- 個人的には時間のムダ、こころのムダを排除すればエコにつながっていくと思っている。



【エコに配慮した地産地消のまちづくりコース成果資料】

◆エコに配慮した地産地消のまちづくりコース ～エコクッキング方法～
(第4回ワークショップ全体発表会)

1. 効率良くクッキング	
1-1 無駄のない動作で調理	1-2 役割と段取りの良いタイムテーブルを示し、作る人の行動を効率化(エコ)する
2. 洗いもの工夫	
2-1 洗剤の使用量を控える	2-2 水を大切に使う
2-3 汚れ物はティッシュでふいてから洗う	2-4 水の節約(水の出しっ放しに注意)、お湯を少なくする
3. 買物	
3-1 マイバックの使用	3-2 パックしていないものを優先的に購入
3-3 余分な買物をしない	3-4 「余った食材」や「作り過ぎた野菜」の乾燥・冷凍保存
3-5 個人(自家菜園等)で作り過ぎた野菜を友人(近所)などへ	3-6 歩いて買い物する
3-7 旬の物食べる、購入する(おいしい、新しい)	
4. 調理方法の工夫	
4-1 圧力鍋を活用し、ガスの使用時間を短くする	4-2 こたつや石油ストーブの保温活用(たいやき、やきいも、煮物)
4-3 うす味調理で素材本来の味を活かす	4-4 お互い良いところをほめ合いながら楽しく調理に取り組む
4-5 豊富な調理バリエーションを考える	4-6 調味料の使い方(うまみの引き出し量、体に害となる量)
5. ゴミの減量	
5-1 規格外(畑に捨てられている)野菜の活用	5-2 皮も茎も食べる(捨てるところはない!!)(教育・情報収集)
5-3 野菜や果物の皮はできるだけうすく剥く(里芋を蒸すと皮がきれいにとれる)	5-4 川の水(自然)を使ってイモの皮むき(イモ洗い水車を使用)
5-5 ゴミの分別(ビニール袋を用いた分別)	5-6 生ゴミの堆肥化
5-7 廃油をリサイクル(福岡庁舎リサイクルセンターなどに出して車の燃料へ)	5-8 割りばしを使わない、再利用
5-9 畑の肥料にボカシ肥料を活用 ※ボカシ…数種類の有機質肥料(4種類以上 米ヌカ・油カス・骨粉・魚カスなど)に微生物資材を入れ、醗酵させたアミノ態肥料のこと	

ふくおか里芋コロッケ

。 材料 (4人分)

里芋	500g	茹でて、ボールに入れて つぶす。 みじん切り
人参	1/2本	
リンコン	40g	
玉ねぎ	1/2ヶ	
合びき肉	80g	
塩・コショウ	少々	
小麦粉	適量	
卵	"	
パン粉	"	
油	"	

。 作り方

- ① みじん切りにした人参と玉ねぎを大さじ1/2の油で炒め、玉ねぎがずきとあつてきたら、びき肉を加え、塩・コショウで味をととのえる。
- ② つぶした里芋に ① とリンコンを混ぜ合わせ8個から12個にまとめる。
- ③ 小麦粉、溶いた卵、パン粉の順に衣をつけ、170度の油で揚げる。

ウ 第4回ワークショップの講評

全体発表会では、「里山保全コース」、「エコな暮らし10ヶ条コース」、「地域資源（エコ）を活用したまちづくりコース」、「エコに配慮した地産地消のまちづくりコース」の代表者（各2名）が発表後、富山大学・碓谷勝氏（富山大学 地域連携推進機構 地域づくり・文化支援部門研究員）からコースごとに講評を得た。

① 里山保全コース

里山保全活動は全国的にも広く展開がなされてはいるものの、保全方法については明確な答えは出しておらず、各地域とも試行錯誤している状況である。里山について関心があるかないかは、里山に接する頻度によるところが大きいと考えられ、福岡町地域での利活用方法を模索することから始めていくことが大切である。今回、難しいテーマではあったが、参加者の皆さんにはよく頑張ってもらったと思う。

② エコな暮らし10ヶ条コース

アイデアが80件出されたということで、かなり活発的なワークショップであった様子がうかがえる。また、出されたアイデアがうまく10ヶ条にまとまっており、特に、取り組み易さの度合いに応じて、整理されているのは良かったと思う。

③ 地域資源（エコ）を活用したまちづくりコース

誰のためのまちづくりというテーマから、ワークショップをスタートさせたことは、大変良かったと思う。最終的には、少し観光に寄りすぎているという印象もするが、成果はかなりまとまっていると感じている。まちづくりは、住民が住みやすい町を第一に、自分たちがどうあるべきかを考えていくことが重要であり、今回のワークショップはとてもよかったという印象を受けている。

④ エコに配慮した地産地消のまちづくりコース

エコに配慮した地産地消のまちづくりについては発表の内容通りであると思う。個人的にも第1回ワークショップに参加した際に「鯉のワンタン」をおいしく頂いた。

2 福岡町地域における今後のエコ活動の取組イメージ

(1) ワークショップの4つの提案の具体的な導入の検討

今回、実施したワークショップでは、参加した福岡町地域の住民が中心となって、住民や地域社会が主体的に取り組むことが可能な“福岡らしさ”を活かしたユニークな4つの提案をとりまとめた。今後、福岡町地域で地域主導型のエコ活動を展開するファーストステップとして、この4つの提案の具体的な導入を検討することが考えられる。

今回の提案では、①家庭からエコを始めるためのわかりやすい目標を示した「エコな暮らし10ヶ条」(エコな暮らし10ヶ条コース)、②身近な生活のなかでエコに取り組むための具体的なノウハウを取りまとめた「エコクッキング」(エコに配慮した地産地消のまちづくりコース)、③地域資源を活かし、地域の暮らしやすさや地域活性化を提案した「安全なみちづくり・回遊できるまちづくり」(地域資源(エコ)を活用したまちづくりコース)、④エコの視点から注目を集めている里山を独自の森林文化・自然との共生の観点から福岡の未来づくりとして提案した「里山づくり」(里山保全コース)の4つである。この4つの提案は、家庭や地域社会で直ちに取り組むことができるもの、地域が協働を通じて将来的なビジョンを持って中長期に取り組んでいくものまでさまざまである。また、今回のワークショップでは、限られた回数・時間・メンバーのなかでの検討であったため、今後、さらに情報収集や検討を深めていくこと等が課題として挙げられる。

今後の取組としては、4つの提案の具体化として、協力が得られる家庭・地区・学校・企業等を対象としたモデル的なエコ活動の展開、4つの提案を引き続き検討したり、導入したりしていくための新規のエコイベントや事業の実施、つくりもんまつり等の既存の地域イベント・行事における活用等が考えられる。

(2) ワークショップで生まれたコミュニケーションやネットワークの継続・発展

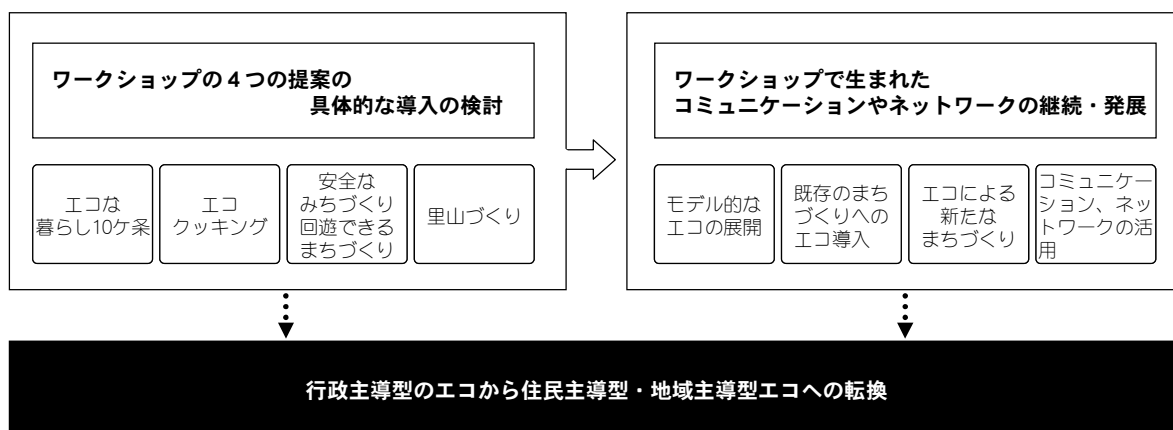
4回のワークショップを通じて、エコをテーマにした住民をはじめするまちづくりの担い手間のコミュニケーション、専門家と住民とのネットワーク、行政と地域社会との協働関係等、さまざまなコミュニケーションやネットワークが生まれた。今後のエコまちづくりにおいては、このワークショップで生まれたコミュニケーション、ネットワークが継続を通じてより一層強化され、活発な交流に発展していくことが望まれる。ワークショップの継続実施、新たな協議・検討の場の構築(ラウンドテーブル、協議会の設置等)、住民主導・地域主導型で専門会等を招く地域勉強会・学習会の開催等の取組等を、福岡町地域で検討することが求められる。

(3) 行政主導型のエコから住民主導型・地域主導型エコへの転換

今回のワークショップは、本調査研究の一環として行政側（事務局）から福岡町地域の住民、地域に協力を依頼し、実現したものであり、「行政主導型」のエコの取組にあたる。しかし、熱心で活発な参加や議論を経て提案されたワークショップの成果は、福岡町地域の豊富な地域資源をはじめ、人材の豊かさ、相互理解と信頼関係に裏付けされた強固なネットワークの存在など、今後、「住民主導型」、「地域主導型」でエコを展開していくための地域的な資質や可能性を証明したものとなっている。

今後のエコ活動は、行政だけで取り組んでいくことには限界があり、住民や地域社会による独自性を活かした主体的な取組が求められている。住民・地域社会と行政とが適切なパートナーシップや役割分担を図りながら、協働の理念で取り組むことにより、エコの大きな社会的な成果・効果を生み出す。したがって、今回の調査から浮かび上がってきた“福岡らしい身近なエコ”をまちづくりの中で具現化するためには、取り組みの“母体”となる住民主体の組織が必要であり、その育成が急がれる。その際、運動の継続性という観点から、今回のワークショップで醸成された住民のエコ意識を継続・発展する形の協働ネットワークづくりがふさわしい。

図表 7-3 福岡町地域における今後のエコ活動の取組イメージ



3 展開方向別にみた福岡町地域におけるエコ活動の取組アイデア

今回実施した、ワークショップ、世帯アンケート調査、各種団体ヒアリング調査から、今後のエコ活動やまちづくりについて、さまざまなアイデアが提案された。ここでは、提案のあったもののうち、福岡町地域での取組が可能なエコ活動のアイデアを、前章で示した3つの展開方向に分けて整理した。

(1) 住民自らが考え、取り組むエコなまちづくり

ア 家庭から広げるエコ

住民が自主的・主体的に取り組むことができる最初のエコは家庭のエコである。住民一人ひとりがエコに対する正しい知識、正確な情報等に基づき、社会的に適切なエコ活動を展開していくことが重要である。また、夫婦で取り組むエコ、親子で取り組むエコなど、家族が相互に働きかけて、子ども世代から祖父母世代まで、家族それぞれが取り組むことができるエコを生活のなかで導いていける家庭環境づくりが必要である。

- ① エコな暮らし 10 ヶ条の普及啓発（家庭で実践できるエコの取組マニュアル化）
- ② エコ家電・設備の利用による環境性能の高い住宅づくり（家庭の住宅性能の向上）
- ③ 無駄ごみゼロ・福岡（家庭ごみの減量化）
- ④ 家庭のエコまるわかり（環境家計簿による家庭のエコ環境の把握）

イ 地域で取り組むエコ

家庭で取り組んだエコ活動の実績を家庭から地域社会・職場等へ拡大。住まいがある地域や校区へ、自分が勤務する職場へと、さまざまなライフステージへ拡充していく。

- ① エコで進める自治会等の効率的なエコ化（エコ活動ができる自治会づくり）
- ② 住民手づくり型エコ活動の募集（地域主導による住民提案型のエコ活動づくり）
- ③ 地球と人に優しい地域交通利用（移動手段の効率化と公共交通の利用促進）

ウ 社会（福岡町地域）で共有するエコ

家庭や職場などの取り組まれているエコのノウハウや情報、ネットワーク等を社会全体で共有化していく。

- ① 省エネコンテストの開催（家庭エコ、職場エコ、まちづくりエコの具体的提案）
- ② 福岡エコまちづくり塾の開講（エコまちづくりに向けた生涯学習講座）
- ③ 福岡エコの採点簿（地域エコの成果の見える化（可視化）に向けた効果の試算）

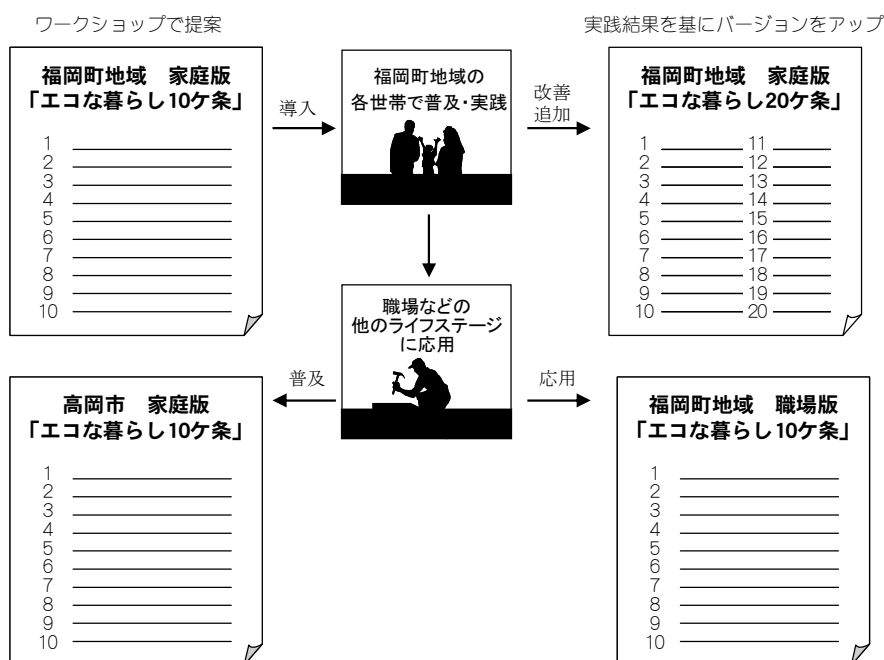
(1) 住民自らが考え、取り組むエコなまちづくり	ア) 家庭から広げるエコ
--------------------------	--------------

取組イメージ ①

エコな暮らし 10 ヶ条の普及啓発（家庭で実践できるエコの取組マニュアル化）

【概要】

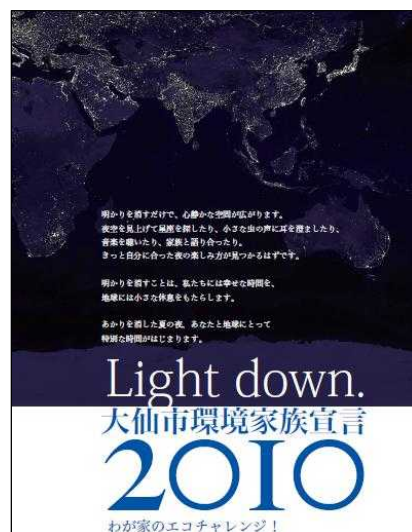
- 本事業における市民ワークショップの中で、市民自らの発案・検討により、各家庭でちょっとした工夫で実施できる「エコな暮らしの取組を 10 ヶ条」として整理した。
- この「10 ヶ条」を市民に啓発し、各家庭で実行することでエコなまちづくりを推進する。
- 市民自らこの「10 ヶ条」を元に内容の充実を検討するため、引き続き行動するためのワークショップを展開し、福岡地域らしいエコな暮らしの姿を実践できる取組を推進する。
- 家庭編「エコの暮らし 10 ヶ条」の実績をベースに、職場編、学校編、自治会編など地域社会やライフステージに合わせた 10 ヶ条づくりへ拡大していく。（リニューアル「10 ヶ条」、「10 ヶ条」から「20 ヶ条」等へ）



【参考事例・データ等】

家庭から温暖化を考える「環境家族宣言」(秋田県大仙市)

- 秋田県大仙市では、日常生活や社会活動におけるエコの行動様式を具体化するため、地域ルールとして、「子どもエコチャレンジ」、(子どもが考え、目標を設定し、環境活動を積み重ねる)、「環境家族宣言」(家庭の環境負荷低減型のライフスタイル構築のための目標等を設定)を創設。
- 「環境家族宣言 2010」では、家庭から温暖化を考える簡易環境家計簿「大仙市環境家族宣言」の参加世帯を募集し、省エネやごみの減量化などの取り組みから数項目を選択してもらい、8月1日から31日までの1カ月間をかけて各家庭で実践。参加家族には全体結果の報告の他、環境家族認定証の交付なども予定。



取組イメージ ②

エコ家電・設備の利用による環境性能の高い住宅づくり (家庭の住宅性能の向上)

【概要】

- 現在、実施されているエコポイント制度によって、近年、テレビ、エアコン、冷蔵庫などの対象家電製品の買い替えが促進された。こうしたエコ家電の利用により、地球環境だけではなく、家計の節約などに大きく貢献が可能。
- また、太陽光発電設備、二重窓化など、住宅設備のリフォーム等により、環境性能の高い住環境を整備する世帯も増加の傾向がみられる。
- しかし、壊れるまでモノを大切に使い続ける、買い替えは贅沢など、まだ利用できる電化製品や家庭設備は、そのまま利用したい家庭が大半を占める。場合によって旧電化製品は買い替えたほうが経済的にも環境にもメリットが大きいこともあるので逐次最新の情報を提供。
- また、太陽光発電設備は、機器価格が約 300 万円、設置工事費用が約 30 万円と、大きな導入コストが発生する。
- 家電リサイクルによる廃棄家電の有効資源化の現状、導入による省エネ効果など、家庭レベルのエコ家電・住宅設備の導入が大きな社会的・家庭的メリットにつながることをPR
- 太陽光発電設備等の設置普及に向けた市の助成制度の拡充のほか、利用可能な国等による支援制度の情報提供
- 太陽光発電や太陽熱給湯器、ヒートポンプ給湯器(エコキュート)や潜熱回収型ガス給湯暖房機(エコジョーズ)、節水型トイレ、高断熱浴槽など、エネルギーを効率的に利用するエコハウス化を促し、発電量や家庭内の消費電力量を市民に「見える化」する。
- 福岡町地域のまとまった区域を設定してエコ改修化などを進める補助金の新設などを検討。



飯田市のエコハウス展示場



エコハウス展示場のソーラーパネル

【参考事例・データ等】

地元企業でも住宅性能を高めるエコ商品を発売

- 地元企業である、三協立山アルミ(株)をはじめとするグループ会社では、エコ商品「後付樹脂内窓(二重窓)」を開発・販売。
- 窓1ヶ所を約1時間で設置し、設置後は冷暖房費を2割程度節約することが可能。
- CO₂の削減効果は、一戸建て(2階)の場合、年間352kg、杉の木の約25本分の吸収量に匹敵するCO₂の排出を抑制可能。

暖かく、静かに、快適に。

今ある窓につけるだけ。

二重の窓で快適性が大幅にアップ!ブラメイクEは後付できる樹脂内窓です。

1 + 1 が4になる。

今ある窓 + ブラメイクE =

- 断熱 ▶
- 防音 ▶
- 健康 ▶
- 安心 ▶

(1) 住民自らが考え、取り組むエコなまちづくり	ア) 家庭から広げるエコ
--------------------------	--------------

取組イメージ ③

無駄ごみゼロ・福岡（家庭ごみの減量化）

【概要】

- CO₂ など排出抑制や収集や処分に係る社会的コストの面から、家庭や事業所などから毎日出されるごみの減量は、エコまちづくりを進めるなかでの最も大きな地域課題。
- ごみの減量化の方法としては、大きくは、①資源化できるものをリサイクルするライフスタイル、②ごみを創り出さないライフスタイルの2つの方法があり、これらを家庭に普及させていくことが重要。
- ①については、ごみの分別やリサイクルの正しい知識・方法の周知、住民が効率的に取り組むことができる環境づくり、ごみの分別の成果や効果・達成感が実感できる環境づくりなどがある。
- ②については、ワークショップで提案のあった「エコクッキング」「マイバック」「過剰包装の排除」など、環境に負荷をかけない、無駄なごみをださない生活の知恵やノウハウ等を共有していくことがあげられる。
- 地場産味噌、醤油などの量り売りの復活と特産化。
- 減量化に貢献する家庭用・団体用コンポストの導入・普及等の市の助成制度の拡充も進めていく。



高岡市の家庭用生ごみ処理機購入補助制度は、団体用についても平成23年度から補助金制度の対象とし、生ごみのリサイクルを推進する。

【参考事例・データ等】

誰もが関心をもつごみ減量に向けた情報発信

- 平成11年度、宮城県仙台市では、「一般廃棄物処理基本計画」を全面改訂し、計画の愛称として「100万人のごみ減量大作戦」と命名。市民一人1日当たりのごみ排出量を1,107g、リサイクル率を30%以上に設定。
- 普及啓発事業の一環として、平成14年度からはキャンペーンキャラクターの「ワケルくん」、ごみ減量・リサイクル情報総合サイト「ワケルネット」(<http://www.gomi100.com/>)を開設し、「ワケルくんファミリー」が市民に広く親しまれている。
- 「100万人のごみ減量大作戦ワケルネット」は4年連続「環境goo大賞」を受賞



取組イメージ ④

家庭のエコまるわかり (環境家計簿による家庭のエコ環境の把握)

【概要】

- 企業の事業所・工場等からの CO2 排出量は近年大きく抑制されているが、家庭からの CO2 の排出量は減少していない。
- その背景の一つとして、自分の家庭からどの程度の CO2 を排出しているのか等、家庭のエコ環境の実態が、各家庭で把握されていない現状があげられる。
- 家庭のエコ環境を数値として把握し、今後の家庭や家族のエコ活動を考えるツール「環境家計簿」がある。
- 環境家計簿は、国、市町村、電力・ガス会社、環境 NPO 等が、さまざまなタイプを提供しており、インターネット等を利用すれば、誰もが気軽に利用可能。
- 福岡町地域の実情に即した環境家計簿を選択又は考案して、福岡町地域の各世帯での利用を促進し、貢献度を数値化し市民に公表していく。

【参考事例・データ等】

地域版やさしい環境家計簿づくり

- 一関地球温暖化対策地域協議会では、家庭で簡単に CO2 の排出量を計算することができる「環境家計簿」を一関市内全世帯に配布。
- 多くの家庭が環境家計簿に取り組むことで、各家庭の取り組みがどのレベルにあるかを認識し、行動することで、「地球環境にやさしいまち いちのせき」の創造を推進。
- 「CO2 ダイエット日記」は各家庭の光熱費・ガソリン使用量・エコチェックを入力すると二酸化炭素 (CO2) 排出量やエコライフのアドバイスが表示。
- 環境家計簿に取り組んだ世帯には抽選で 20 名に図書券を進呈。
- 実績 156 名が「CO2 ダイエット日記」に取り組んでいる。(H21 年度報告書)

(1) 住民自らが考え、取り組むエコなまちづくり	イ) 地域で取り組むエコ
<p>取組イメージ ① エコを進める自治会等の効率的なエコ化（エコ活動ができる自治会づくり）</p>	
<p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 福岡町地域の自治会等では、ごみの分別、ごみ集積場の管理等、住民にとって最も基幹的なエコ活動において重要な役割を担っている。 ○ しかし、自治会のなかにエコの担当者や部会などの担当組織を設置している自治会は限られている。 ○ 地域主導のエコまちづくりを展開するためには、地域コミュニティの重要な担い手である自治会等がエコ活動に活発に展開できる人づくり・組織づくりが不可欠である。 ○ 「自治会等の効率的なエコ化」を目標に、各単位自治会、校区単位の自治会連合会のなかで、エコの担当者、担当組織をおくなど、地域社会でのエコの推進体制を強化していく。 ○ 自治会等の「効率的なエコ化」の具体的な取組としては、 <ul style="list-style-type: none"> ①ホームページ、電子メール、モバイル通信等のIT技術を活用した、エコに関する情報提供（地域の実情に即したごみ出しルールの案内、メール等利用したエコ活動への参加案内、電子回覧板の実施等） ②福岡町地域独自のエコ活動づくり（1地区1エコ活動、地域緑化・花植栽・グリーンカーテンづくり等）※例えばグリーンカーテンは朝顔やゴーヤなど子どもからお年寄りまで楽しみ育てやすい植物に統一する等 ③集会所等の自治会等利用施設の効率的なエコ化（LEDや省エネ冷蔵庫・エアコン等の効率的なエコ家電・設備等への買い替えや導入） などが考えられる。 ○ また、自治会レベルでのエコ活動の活発化・活性化を通じて、新たな若い世代の自治会・地域活動への参加促進、NPO等の専門的なエコ活動の担い手等との連携の強化等も期待できる。 ○ まとまった区域（自治会等）を設定（地区限定）し、団体内会員全体のエコ活動の取り組み合意と創意工夫の協定書の取り交わしなどを行い、エコ活動の社会的・公共的な役割として認定する。こうした取組により住民のエコ活動を促していく。 ○ まとまった区域（自治会等）を設定し、団体内のエコ活動の取り組み合意と区域全体のCO2削減計画の作成と実施を進めていく。（CO2削減量の数値化と見える化） 	
<p>【参考事例・データ等】</p> <p>ITの活用によるスマート自治会の実現へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 岡山県岡山市では、岡山市では、地域におけるコミュニケーションの活性化をめざして電子町内会事業を推進、現在、市内の67町内会が参加。 ○ 参加した町内会では、市の支援等を受けながら、独自のホームページの開設や電子回覧板、加入世帯向けの電子メールサービスなどを実施。 ○ 電子自治会づくりを進めた芳賀団地南町内会では、ホームページのなかに、「環境衛生」ページを設定し、スプレー缶を捨てるときの注意事項の詳細を掲載し、危険性等をわかりやすく紹介。 ○ 効率的なエコ化の取組が評価され、2006年度の「毎日・地方自治大賞」（毎日新聞社主催、総務省後援）において、奨励賞に選出。 <div data-bbox="1002 1467 1417 2020" data-label="Image"> </div>	

取組イメージ ②

住民手づくり型エコ活動の募集（地域主導による住民提案型エコ活動づくり）**【概要】**

- 各家庭での取組を推進するとともに、自治会などの各種団体や企業が連携して地域の環境向上に努めることも重要である。
- こうした地域協働型の取組として、住民手づくり型のエコ活動が提案されてきている。代表的なものでは、小矢部川・岸渡川・蓑川の清掃美化・水質浄化や自然再生、福岡町地域のシンボルである岸渡川・蓑川の桜並木の拡充、菅田の再生と新たな管製品づくりの後継者育成などがある。
- こうした活動をさらに活発化していくためには、住民側の自発的な活動に期待するだけでなく、福岡町地域として、手づくり型の住民のエコ活動を引き出すための環境づくりが重要である。
- 環境づくりの方法としては、①住民の提案・アイデアを掘り起こすための仕組みづくり（提案コンテストの実施、テーマ型のアイデア募集等）、②提案を具体的なエコ活動として実現するための仕組みづくり（実施のための地域エコ予算の確保、エコの専門家・実務家からの助言、行政（市）の助成制度の活用）、③住民提案型のエコ活動を評価・表彰する仕組みづくりなどがある。

【参考事例・データ等】**地域の自立的な活動を引き出すための地域予算制度の構築**

- 住民自治の拡充、都市内分権などを進める観点から、地域の住民が自由に地域活動を展開できるよう、用途を定めない地域予算の交付を制度化する市町村が増加。
- 地域予算制度は、花巻市、名張市、池田市、朝来市、宮崎市などでは導入され、地域独自性ある活動が多数展開されている。こうした活動のなかで、エコ活動もとりあげ、活発な取組が展開されている。

(1) 住民自らが考え、取り組むエコなまちづくり	イ) 地域で取り組むエコ
<p>取組イメージ ③ 地球と人に優しい地域交通利用（(移動手段の効率化と公共交通の利用促進)</p>	
<p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ JR、バスなどの公共交通の効果的な利用により、自動車中心の移動方法から、より効率的で環境に負荷をかけない住民の移動手段の確保。 ○ エコカー、自転車など、環境配慮型の交通手段の導入や走行等の増大を図る。 ○ 公営バスの利用促進（JRや他の公共交通との連携、時刻表・ルート・運行回数の見直し、バス停の整備と見やすい案内看板、バリアフリー化など） ○ 公営バスの電気バス化、バス停のエコ化、パークアンドライドの推進。 ○ 歩きやすい歩道整備や自転車の活用しやすい道路。 ○ 高齢化の著しい中山間地へお買い物バスやデマンドバス導入などにより自動車が無くても質の高い生活ができるよう公共的サービスを担う民間へ支援。 	
<p>【参考事例・データ等】</p> <p>自転車利用促進の社会実験</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 岩手県盛岡市は、マイカー抑制と公共交通・自転車利用促進を柱に、地球環境にやさしい交通体系の構築を目指している。 ○ 平成19年度には自転車条例を制定し、市民誰もが気軽に利用できる交通手段として自転車を位置付け、自転車利用の促進に努めている。 ○ 平成20年度には自転車走行空間（ブルーゾーン）の整備や通勤レンタサイクル等の社会実験を行った。 ○ この社会実験の結果を踏まえ、自転車走行空間の拡大や盛岡駅前自転車駐車場指定管理者による通勤レンタサイクルの実施など、本格的に事業展開している。 	

取組イメージ ①

省エネコンテストの開催（家庭エコ、職場エコ、まちづくりエコの具体的提案）

【概要】

- 各家庭や職場などでの効果のあるエコのノウハウ、楽しく持続できるエコの取り組み方、「エコな暮らし 10 ケ条」の導入世帯等を対象に、優秀な方法や実績のあった家庭等をコンテスト方式で表彰。
- 身近なテーマ別のコンテスト部門を設定し、子どもから高齢者まで、すべての住民がエントリー可能な方法を検討。
- 審査員として、郷土ゆかり文化人、大学（富山大学）等の学識者、市長等の行政関係者等を招聘。全国的視点、専門的視点、全市的視点からも、エコの優秀者、優秀世帯を選定。
- 優秀者、優秀世帯のエコの取組や方法等を、全国レベルのエココンテストへのエントリーも支援（財団法人省エネルギーセンター「省エネコンテスト」等）。
- 最高賞、優秀賞等のノウハウは、市のホームページ、市広報、自治会回覧板等で広くPRし、導入・実施世帯の増大を推進

【参考事例・データ等】

省エネコンテストで家庭の省エネを地域全体に

- 北海道大樹町では、町内 100 世帯がエントリーして、冬場の電気代や燃料代をどれだけ節約できるかを競う「わがやの省エネコンテスト」を開催。
- 審査委員などに、地球環境工学などが専門の小宮山宏（元東京大学総長）、松下奈緒（女優・ガグゲの女房ヒロイン）等の各氏を招聘。
- 創意工夫部門、リフォーム部門、モニター部門の3つのコンテスト部門を設け、町民の参加意欲や関心を喚起。



(1) 住民自らが考え、取り組むエコなまちづくり	ウ) 地域（福岡町地域）で共有するエコ
<p>取組イメージ ② 福岡エコまちづくり塾の開講（エコまちづくりに向けた生涯学習講座）</p>	
<p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ エコまちづくりに向けた裾野の広い人材育成を行うため、小中学校、Uホール、地域施設等においてエコ学習講座「福岡エコまちづくり塾」を開講。 ○ 地域主導のメリットを活かし、独自の学習プログラムの他、民間等の多様なエコ学習プログラムを導入。 <p>① “キッズ”エコまちづくり塾（次世代を担う子どもたちに対する環境学習の推進）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学生・中学生等を対象に、「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」を目的として、地域の自然観察や体験的な学習の場を通じて、環境を守る大切さを学習。 ○ 環境に配慮した学校施設（エコスクール）の整備推進を検討するとともに、地域の活動と連携した環境学習を推進。 ○ 岸渡川などの河川や水田、里山地域等をフィールドとした体験学習プログラムを推進し、地域の大切な財産である自然環境保全の意識啓発を図る。 <p>② 生涯学習による環境学習の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭から広げるエコ活動や地域環境力の向上を目指すため、活動母体となる組織づくりや出前講座などの意識啓発を推進する。 ○ エコドライブや環境に優しいノーマイカー通勤などの促進のため、事業者への認定制度やコンテストの実施などによる意識啓発を推進する。 ○ 地元のエコ企業を活用したエコツアー、環境学習の実施を図る。 	
<p>【参考事例・データ等】</p> <p>自作ソーラーカーでエコへの関心づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 民間の太陽光発電設備の販売・据付会社では、商業施設等を会場に、子ども向け「ソーラーカー工作」、「お絵かき教室」を実施 ○ 太陽光で走行する紙でつくるミニカーを作って、自然や太陽光のパワーの理解、楽しいエコの取組等を学習。 ○ 子どもが、着色やデザインで創意工夫できるソーラーづくりになっており、これらを集めたソーラーカーデザインコンテストも開催し、受賞作品を毎年発表。 	

(1) 住民自らが考え、取り組むエコなまちづくり	ウ) 地域（福岡町地域）で共有するエコ
<p>取組イメージ ③ 福岡エコの採点簿（エコの成果の見える化（可視化）に向けた成果・効果の試算）</p>	
<p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 住民や地域社会でのエコの取組は、成果などがなかなか実感できない。このため、エコ活動のやる気や関心が低下して、持続的な活動に結びつかない等の課題を有している。 ○ 個人や企業・学校等で取り組んだエコ活動が総和され、福岡町地域全体でどの程度のエコが達成できたのかを見える化（可視化）するにより、住民や地域社会の関心を高め、活動の継続性を高めることに貢献する。 ○ マスメディアや広報紙、インターネット（パソコン、携帯電話、スマートフォン）などを利用した活動実績・成果の申告と累計化、環境家計簿等を活用した地域統一的な取組フォーマットの集計化などが考えられる。 ○ 住民が関心をもって取り組みやすいテーマとしては、①電気・ガスの効率的利用（節約量・金額の累積化）、②CO2の排出量の試算と視覚化（森林面積への換算、東京ドーム何個分といった量の視覚化等）、③健康づくりなどを連動したエコ活動の数値化（ウォーキングの歩数の積算等）、④リサイクルやごみの減量（減量ごみ量・リサイクル料の累積化）などがあげられる。 ○ 見える化（可視化）の方法としては、Uホール（ホワイエ等）、JR福岡駅舎（待合室等）はじめ公共施設等へのパソコン・テレビ画面・ポスター等での積算データ等の公表、リサイクル量に見合った製品の展示（アルミ等の製品やインゴットの展示）などが考えられる。 	
<p>【参考事例・データ等】</p> <p>亀を月まで歩かせるプロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歯磨き・洗剤メーカーの大手、㈱ライオンの健康保険組合では、社員の運動機会を拡充するため、2004年に「オールライオン ウォーキングキャンペーン」を実施。 ○ キャンペーン期間中（1年間）に、参加者には歩数計を無料で配布。参加者は社長を含む2,300人で、社員の半数強を占める。 ○ 社員のキャンペーン参加意識や継続意欲を確保するため、キャンペーンマスコット「亀のテクロー」を創作、社員の年間歩数を累計して、地球から月までの40万キロの完歩を目指す。 	